St. Luke's International University Repository

看護の人たち，とも働く

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 立岩, 真也, Tateiwa, Shinya メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00016704

【第27回聖路加看護学会学術大会：特別講演】

看護の人たち，とも働く

立岩　真也

Ⅰ．当日の講演

「看護の人たち，とも働く――立命館大学大学院先端総合学術研究科・生存学研究所」と（後で）題した当日の講演はZoomを使ったもので，その60分の動画・音声を視聴することができる．「立岩真也」あるいは「看護の人　立岩真也」で検索すると表示されるarsvi.comというサイト内の，2022年９月18日の記事が該当のページである（立岩，2022a）．本講演は大きく以下の３つの部分に分かれている．

１．筆者とその職場について

まずかんたんに，筆者と筆者が働いている場について説明した．職場である，立命館大学大学院先端総合学術研究科・生存学研究所（以下，本研究所）の説明についてはほとんど時間を使っていない．2007年に提出した書類のため，すでに約15年が経っているが，「生きて存るを学ぶ――障老病異と共に暮らす世界の創造（生存学創成拠点・趣意書）」（立岩，2007）を読んでいただくのがよいと思う．本研究所は，文部科学省がしばらくお金を出していた「グローバルCOE」というプログラムというものの拠点のひとつとして選ばれ，そのプログラム自体はなくなったが，大学の研究機関としては残り，現在は「生存学研究所」という組織になっている．お金はないが，よい仕事をしていると思う．そのサイトのひとつが「arsvi.com」である．ぜひご覧いただきたい．

２．大学院生の研究について

本研究科・研究所にやってきた大学院生たち，特に看護の仕事・教育にかかわる人たちが何人もいたこと，その人の研究に筆者がどのようにかかわってきたか，以下，おのおのごく短くではあったが紹介した．

①有吉玲子（2013）：『腎臓病と人工透析の現代史――「選択」を強いられる患者たち』（立岩，2014）．
　※立岩真也（2013）：「これは腎臓病何十万人のため，のみならず，必読書だと思う」（立岩，2013）．

②一宮茂子（2016）：『移植と家族――生体肝移植ドナーのその後』（中倉，2016）．

③窪田好恵（2019）：『くらしのなかの看護――重い障害のある人に寄り添い続ける』（安田，2019）．
　※立岩真也（2019）：「ここにもっとなにがあり，さらにあるはずについて――解題に代えて」（立岩，2018）．

また，現役の院生として，西田美紀氏，戸田真里氏の研究を紹介した．

３．進行中の研究について

そして，その人たちといま進めている・進めようとしている企画として「生を辿り途を探す――身体×社会アーカイブの構築」（立岩，2022b）の紹介をした．

話を聞いて，記録して，公開する企画の一例として上記の戸田真里氏の表皮水疱症の人たちとその関係者たちの声の記録（立岩，2022c）を紹介した．すべき仕事の幅・嵩（かさ）に比して，実際にその仕事を行う人がまったく少ないという状況がある．どなたか仕事しませんか，という話をした．

Ⅱ．研究所の紹介

生存学研究所については，2022年11月14日に立命館大学ウェブサイトに掲載されたインタビュー記事（【知の拠点を訪ねて】「障老病異」を抱えて生きる身体と社会の関わりを探究する　生存学研究所）を参照されたい（立命館大学，2022）．

立命館大学大学院先端総合学術研究科・生存学研究所

引用文献

中倉智徳（2016）：*『移植と家族――生体肝移植ドナーのその後』*．http://www.arsvi.com/b2010/1603is.htm（2022/12/６）．

立命館大学（2022）：*【知の拠点を訪ねて】「障老病異」を抱えて生きる身体と社会の関わりを探究する　生存学研究所*．https://www.ritsumei.ac.jp/news/detail/?id=2892（2022/12/６）．

立岩真也（2007）：*生存学創成拠点・趣意書*．http://www.arsvi.com/a/200702.htm（2022/12/６）．

立岩真也（2013）：*「これは腎臓病何十万人のため，のみならず，必読書だと思う」*．http://www.arsvi.com/ts/20130039.htm（2022/12/６）．

立岩真也（2014）：*『腎臓病と人工透析の現代史――「選択」を*

強いられる患者たち』. http://www.arsvi.com/b2010/1311ar.htm（2022/12/６）.
立岩真也（2018）：*「ここにもっとなにがあり，さらにあるはずについて――解題に代えて」*. http://www.arsvi.com/ts/20190006.htm（2022/12/６）.
立岩真也（2022a）：*看護の人たち，とも働く――立命館大学大学院先端総合学術研究科・生存学研究所*. http://www.arsvi.com/ts/20220918.htm（2022/12/６）.
立岩真也（2022b）：*「生を辿り途を探す――身体×社会アーカイブの構築」*. http://www.arsvi.com/a/arc.htm（2022/12/６）.
立岩真也（2022c）：*表皮水疱症患者及び家族へのインタビュー．声と象の記録；生を辿り途を探す：身体×社会アーカイブの構築*, http://www.arsvi.com/a/arc-r.htm#eb（2022/12/６）.
安田智博（2019）：*『くらしのなかの看護――重い障害のある人に寄り添い続ける』*. http://www.arsvi.com/b2010/1904ky.htm（2022/12/６）.